

3週目：創世記17：15～22：24

1日目：創世記17：15－27

イシュマエルの誕生が神様の約束の実現ではないことをアブラハムは知らされました。翌年にサラが子どもを産むと言われたアブラハムはどのように考えたでしょう。アブラハムは直ぐに自分とイシュマエルと家族全員に割礼を受けさせました。割礼とは赤ちゃん以外の人にとっては非常に痛い、苦しいことです。アブラハムはサラが身ごもると言われて笑いました。人には笑ってごまかす傾向があります。笑ったことよりもアブラハムの不信仰が問題でした。そして、不信仰の中で神様の計画を信じる勇気を持たず、イシュマエルを通して祝福していただこうと神様を説得しようとしたのです。この時点でイシュマエルは約13歳です。アブラハムとは深く結ばれていたことでしょう。

<深く考えるための質問>

- 1) 13歳になったアブラハムとイシュマエルとの関係はどれほど深いものになっていたでしょうか。13歳頃の親との楽しい思い出はありますか。
- 2) アブラハムは神様が提示した計画を信じたかったのでしょうか。なぜそれが分かりますか。この時点でのアブラハムの信仰はどのような状態でしたか。

2日目：創世記18：1－15

神様は3人の訪問者をアブラハムに送りました。目的は神様の約束を再確認するためでした。その中でサラの不信仰に気付き、彼女が笑ったことを指摘しました。サラは笑ったことを認めず、嘘をつきました。この場面でも笑いとは不信仰の関連が現われます。私たちも笑って明るく振る舞いながら心の底では不信仰なときがあるでしょう。不信仰があれば、嘘をつかず、正直に認め、神様に助けていただきましょう。サラは自分は出産を経験するためには年を取り過ぎだと考えていました。しかし、神様は彼女の年齢に対して、違う見方がありました。

<深く考えるための質問>

- 1) サラは自分の年齢で子どもを産むことに対してどのように反応しましたか。あなたがサラの立場であったら、どのような反応ができたと思いますか。今までの信仰生活において、不信仰のために笑ったことがありますか。
- 2) 自分が年を取ったと最近考えたことはありますか。年を重ねていく上で自分を否定的に捉え、何かをあきらめたりしていませんか。挑戦しなくなっているものはありますか。サラの例を見倣い、何かあきらめていたことに挑戦してみてください。

3日目：創世記18：16－33

ソドムとゴモラの悪に対する声が神様の耳に届いていました。21節によると、神様は聞いたことに直ぐ反応せずに自ら真の状態を確かめました。時々人は誰かから何かを聞くと確かめずに盲目的

に信じてしまうことがあります。元々持っていた先入観によって誤った判断することもあります。神様はそのような方ではありません。

ソドムとゴモラを滅ぼそうと考えていることを神様はアブラハムに明かします。それほどの信頼関係がありました。アブラハムは神様がソドムとゴモラの人々を憐れむように必死に交渉します。

<深く考えるための質問>

- 1) 今まで神様に対してこのような交渉という形でお願ひしたことがありますか。今そのようなことができるのであればどのようなことを神様にお願ひしますか。
- 2) 最も救われて欲しい人は誰ですか。救われて欲しい人の名前をリストアップしてお祈りしてください。その人々に連絡する計画を立て、この数週間の内に時間を過ごしてください。

4日目：創世記19：1－38

アブラハムが熱心に交渉したにも関わらず、ソドムとゴモラはあまりにも酷く、神様はその町を滅ぼすことを決意しました。神様が送った2人の天使に対して、ソドムの人々は残酷な対応をしようとしました。ロトはその人々の罪に対し、自分の娘を身代わりにするという妥協案を考えました。この妥協は今後のロトと娘の生き方に大きく影響することになります。神様はロトに山へ逃げるように命じましたが、彼は恐れて、御心である山の上でなく、妥協して小さな町ツォアルへ行きました。その妥協がロトの妻が塩の柱とされる結果につながりました。滅びから逃れたロトと娘たちは、父娘間の姦淫の罪をもつことになります。ロトと彼の家族の生き方と、滅ぼされたソドムとゴモラの人々はあまり変わりませんでした。親子間の性行為は英語でソドミーと呼ばれています。

<深く考えるための質問>

- 1) 今までの信仰生活においてロトのように妥協した経験がありますか。または、周囲でそのような姿を見たことがありますか。その妥協は悪い結果につながりましたか。
- 2) なぜロトは山の上ではなく、ツォアルに行こうと思ったのでしょうか。私たちは何を動機として生きていますか。

5日目：創世記21：1－20

神様の約束どおりにサラは妊娠し、イサクを産みました。100歳で父親になったアブラハムは生まれたばかりのイサクを抱きながら、どれほど幸せを感じたことでしょうか。イサクは「笑う」を意味します。神様の約束に対してアブラハムもサラも信じずに笑ったことを思い出すためかもしれません。かつて不信仰の「笑い」が神様を賛美する喜びの「笑い」に変わっていました。神様は皮肉な笑いを喜びに変えることができます。今は辛い思いや不信仰に支配されていても、神様は必ずあなたの人生において力強く働いてくださいます。サラは祝福された身でありながら、ハガルに対しては憐れみの心を持ちませんでした。サラの心はアブラハムの譲る心と違うと考えられるでしょう。

<深く考えるための質問>

- 1) イサクの誕生はどのようにサラの人生に影響しましたか。良い意味で、また悪い意味でどのように影響したでしょうか。子どもが与えられた親であれば、子どもの誕生によってどのように具体的に自分の強さと弱さが表われましたか。
- 2) サラがハガルを追い出したことは良いことだったと思いますか。アブラハムはどう思ったでしょう。なぜアブラハムはこの行為を許したのでしょうか。
- 3) アブラハムはハガルとの関係においてサラを霊的にリードしていたのでしょうか。アブラハムは愛する息子イシュマエルから引き離され、どう感じたでしょう。ディサイプリングが行われていない人生や家族関係の中で、アブラハムのように傷ついた経験があれば書き出してください。

6日目：創世記22：1－24

イサクが成長し、幸せな日々の中、アブラハムは神様に試されました。イサクをいけにえにするように命じられました。アブラハムは間違いなく、イシュマエルとも親しい関係を持っていました。彼はイサクの14歳年上でした。ハガルとサラの不和によって、愛する息子イシュマエルから引き離されたアブラハムは今度は愛するイサクから引き離されようとしていました。親としてどれほど苦しんだでしょう。しかし、アブラハムの反応は以下の通りでした。

- *朝早く起きて、出かけた
- *捧げる場所に行くために3日も歩いた
- *薪を用意して息子を捧げる準備があった
- *刃物を手にし、息子を刺すところで止められた

アブラハムはイサクの命の灯火を絶つ寸前で、天使に止められました。アブラハムは神様を一番に愛し、恐れ敬っていたことを確信しました。神様はアブラハムに畏敬の念があるかどうかを確かめたかったのです。神様は「善い思い」だけでは満足しません。神様のために本当にすべてを捧げられることを示しましょう。神様は喜び、私たちの心を祝福するでしょう。

<深く考えるための質問>

- 1) クリスマスになる前に最も捨てにくいものは何でしたか。それを捨てて、バプテスマを受けたときにどう思いましたか。その後の人生はどうなりましたか。
- 2) 今、最も神様に取り上げられたくないものは何ですか。なぜですか。それを神様に捧げる信仰がありますか。
- 3) アブラハムは神様に命じられ、朝早く起きて直ぐに従いました。神様に命じられていることでやらなければならないと分かっているながら、なかなか実行していないことがありますか。今週、どのように何人の隣人を愛し、福音を伝えましたか。